

|   |         |             |              |             |
|---|---------|-------------|--------------|-------------|
| 1 | (1) 142 | (2) 197     | (3) 369      | (4) 208     |
|   | (5) 654 | (6) 294     | (7) 6000 (秒) | (8) 21 (m)  |
|   | (9) 7   | (10) 90 (円) | (11) 7 (才)   | (12) 40 (こ) |

|   |           |          |
|---|-----------|----------|
| 2 | (1) 14 cm | (2) 6 cm |
|---|-----------|----------|

|   |          |         |
|---|----------|---------|
| 3 | (1) 1620 | (2) 478 |
|---|----------|---------|

|   |       |       |
|---|-------|-------|
| 4 | (1) 8 | (2) 5 |
|---|-------|-------|

|   |          |           |
|---|----------|-----------|
| 5 | (1) 40 円 | (2) 110 円 |
|---|----------|-----------|

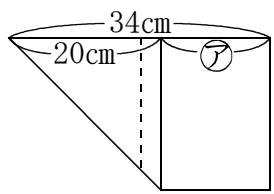
|   |       |       |
|---|-------|-------|
| 6 | (1) 4 | (2) 3 |
|---|-------|-------|

- 1 (5)  $\square + 46 = 700$   
 $\square = 700 - 46 = \underline{654}$
- (6)  $450 - \square = 156$   
 $\square = 450 - 156 = \underline{294}$
- (7) 1分 = 60秒  
 100分 = 60秒  $\times$  100 = 6000 (秒)
- (8) 1000mm = 100cm = 1m  
 2000cm = 20m  
 $\square \text{ m} - 20\text{m} = 1\text{m}$   
 $\square = 20 + 1 = \underline{21}$  (m)
- (9)  $\square$ を4倍した数から8をひくと、20になる。  
 $\square$ 線部は、 $20 + 8 = 28$   
 九九表で、 $7 \times 4 = 28$ なので、 $\square = \underline{7}$ 。

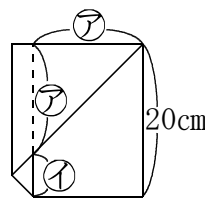
- (10)  $15 + 15 + 20 + 20 + 20 = \underline{90}$  (円)
- (11) 兄の年れいは、弟の年れいの2倍。  
 かずや君が、兄より年上になったり、弟より年下になったりしないような年れいを考える。  
 弟が6才、兄が12才のとき、かずや君は、  
 $19 - 6 - 12 = 1$  (才)で、おかしい。  
 弟が5才、兄が10才のとき、かずや君は、  
 $19 - 5 - 10 = 4$  (才)で、おかしい。  
 弟が4才、兄が8才のとき、かずや君は、  
 $19 - 4 - 8 = 7$  (才)  
 弟が3才、兄が6才のとき、かずや君は、  
 $19 - 3 - 6 = 10$  (才)で、おかしい。  
 よって、かずや君は7才。

- (12) 白い正方形だけを数えて、40こ。  
 (別解)  
 正方形は、赤白合わせて、 $7 \times 9 = 63$  (こ)ある。  
 よって白い正方形は、 $63 - 23 = \underline{40}$  (こ)ある。

- 2 (1) 重なる辺の長さを考える。  
 右の図から、⑦は、  
 $34 - 20 = \underline{14}$  (cm)



- (2) ①の上には、1回目のおった辺がある。⑦と①を合わせると、長方形のたての長さと同じ20cm。よって①は、  
 $20 - 14 = \underline{6}$  (cm)



- 3 (1)  $476 + 815 + 329 = \underline{1620}$

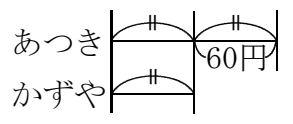
- (2)  $912 + ABC + DEF = 1746$   
 A, B, C, D, E, Fとして残る数は、3, 4, 5, 6, 7, 8。  
 $1746 - 912 = 834 \dots ABC + DEF$   
 一の位から、 $C + F = 4$ か $14$   
 $\rightarrow C, F$ は6, 8  
 A, B, D, Eとして残る数は、3, 4, 5, 7。  
 一の位でくり上がりがあるので、十の位から、  
 $B + E + 1 = 3$ か $13 \rightarrow B, E$ は5, 7  
 A, Dとして残る数は、3, 4。  
 ABCとして、すべて大きい方の数を選ぶと、それぞれ4, 7, 8なので、478。  
 DEFは356となり、  
 $912 + 478 + 356 = 1746$ のとき。

- 4 (1) 図から、7と向かいあっている目は、9, 5, 1, 4ではない。よって、7と向かいあっている目は、7, 9, 5, 1, 4ではない8。

- (2) 7が出ているとき、手前側の2つの面は9と5、または1と4。この2つの図で、7の目の向きが同じなので、7の目を上に向けたまま、半回転させたものだとわかる。よって、1と向かいあっている目は9で、4と向かいあっている目は5。

- 5 (1) あつき君からかずや君に10円玉を2まい、つまり20円わたすと、2人の持っている金がかくが同じになる。よって2人の持っている金がかくは、  
 $20 + 20 = \underline{40}$  (円)のちがいがある。

- (2) かずや君からあつき君に5円玉を2まい、つまり10円わたすと、2人の持っている金がかくは、  
 $40 + 10 + 10 = 60$  (円)のちがいになる。  
 このとき、あつき君はかずや君の2倍の金がかくに  
 なるので、右の図から、  
 あつき君は、 $60 + 60 = 120$  (円)になる。  
 ただし、10円もらって120円なので、あつき君は、 $120 - 10 = \underline{110}$  (円)持っている。



- 6 (1)  $1 + 2 + 3 + 4 + 5 + 6 + 7 + 8 + 9 = 45$   
 $6 + 8 + 11 + 16 = 41$   
 $45 - 41 = 4$ なので、4。

- (2) たして16になる2まいの組は、7, 9。  
4がないので、たして6になる2まいの組は、1, 5。  
 残る2, 3, 6, 8から、たして11になる2まいの組は、3, 8なので、小さい方のカードは3。  
 (配点) 1; 各5点  $\times$  12 他; 各4点  $\times$  10